

二十一世紀COEプログラムは、日本の大学に世界最高水準の研究教育拠点を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材を育成することを目的としている。「革新的な学術分野」を対象にした今年度は、国公私各大学から意欲的な申請が三百二十件あり、この中から二十八件が採択された。二松學舎大学の「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」が採択されたことは、漢学塾を出発点とする二松學舎大学の、漢文学研究と教育の実績が評価されたことを意味する。二松學舎大学が二十一世紀の文化の創造にどのように寄与するか、その構想と抱負を、石川忠久学長と統括責任者の佐藤保教授にうかがう。

### 伝統ある「漢文研究」を二十一世紀に活かす

本学の「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」が、このたび平成十六年度COEプログラムに採択されたことは、本学の百二十七年に及ぶ伝統と、近年のそれを活かした知の拠点づくりの取り組みが高く評価されたものと、大変うれしく思っています。

本学は、明治十年に漢学塾として出発しました。明治初期のあまりにも性急な欧化に批判的であった創立者・三島中洲は、日本の伝統文化の継承と東洋精神の発揚を目指して、本学を創設したわけです。以来、その建学の精神を受け継ぎ、日本文学・日本漢文学・中国文学の研究・教育に力を入れ、数多くの研究教育者を輩出してきました。

この伝統を活かし、より本学の

特色を旗幟鮮明にするために、平成十五年度に中国学専攻に中国学、日本漢学、総合化学の三講座を設けました。名前のとおり、中国学講座は中国の文学、思想、語学を対象とし、日本漢学講座は漢文学、また、総合化学講座は漢字文化圏である中国と日本と韓国の文化を総合的に研究する講座です。つまり、漢文を研究教育の一



今年3月に竣工した新九段キャンパス

### 東洋の精神文化と127年の伝統が生きるアジア学の拠点



# 二松學舎大学



## 学長 石川忠久

いしかわ・ただひさ／1932年生まれ。1955年東京大学文学部卒。同大学院修了。1972年校美林大学教授。1990年二松學舎大学大学院教授。1995年大学院文学研究科長。1999年理事長を経て、2001年学長に就任。(財)斯文会理事長。全国漢文教育学会会長。文学博士。

つの柱とすると同時に、広く東アジア漢字文化圏の中でこれを捉えなおすという知の組み替えを行って行きます。さらには、国際漢字文献資料センターを設置して、漢字漢文文献の調査・整理を行う専門家の養成に着手しました。これは現在、東アジア学術総合研究所の一部門に改組され、より発展した形で拡充を図っています。また、本学の文学部と国際政治経済学部の両学部で共通に学ぶことができる「東アジアの文化と社会」というコースを設置しました。

こうした基盤の上に今回のCOEプログラムの採択があるわけです。歴史的にみれば、日本人は日本に漢字漢文が入ってから、その漢文を使って文学、思想、芸術、宗教、制度などあらゆる分野の活動を行ってききました。つま



緑の丘をイメージした公開空地

今回のCOE採択は、日本文化全体に関わる快挙であって、二松學舎大学のみならず、漢字教育、漢字文化の振興に携わる多くのひととに活力を与えるものと考えています。

り、漢字漢文は日本の学術分野の根幹をなし、日本漢文学研究は日本学の本質にほかなりません。ところが、明治以降漢文やその読み下し文は日本文化の中軸であったにもかかわらず、漢文は中国文学であると曲解されたり、あるいはナショナリズムや右翼思想と結びつけられ、研究対象として疎んじられ、敬遠される傾向にありました。そして、漢文の読解力も衰退している現状は、日本文化の理解のためにはまことに危惧すべき事態なのです。すなわち、漢文は日本文化の根幹に関わる、日本の伝統に根ざした貴重な文化遺産なのです。ですから、



東アジア学術総合  
研究所 教授  
拠点リーダー

## 高山 節也

日本漢文学といえば、まず想起されるのは、近世以降明治にいたる漢詩文の伝統と、江戸期を中心とした漢学者の業績を対象とする学問である。ただそれですら、明治以降の洋化政策とさらには敗戦後の急激な実益偏重の世相のなかで、見る影もなく衰微しつつあることの実感が、我々にはあった。

こうした状況のなかで、今回我々が提出したプログラムは、これら近世以降の日本漢文の伝統はもとより、それを形成するための必然としての原文化、つまりは漢籍渡来に始まり、記紀万葉などの漢字文献の成立から中世における内典外典の翻刻などまでを視野に入れた、まさにグローバルな日本漢文学を想定したものであった。それらに基づいて形成された古代から近代にいたる、あらゆる分野での日本漢文文献資料の世界における収集とデータベース化、また個々の資料や文化事象についての個別研究、諸外国における日本漢文学研究者との交流連携などを、研究推進の方法として計画している。

このことには、先に述べた日本漢文学の置かれた悲観すべき現状のなかで、本プログラムが、世界における日本文化の特質を再認識し、学問文化における我が国の真の意味での国際化を達成する一助を担うものである、という自負がある。

今回の採択はこの意図を十分評価されてのことであり、この喜びはひとり本学のものではない。

本学のCOEプログラム「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」採択については、大きな喜びとともに、大きな驚きも感じている。つまり日本漢文学という地味でしかも一見古くさい研究対象を標榜したプログラムが、科学技術の先端をいく並び居るプログラムの中によくぞ互しえた、という驚きである。



大学院文学研究科  
中国学専攻教授

## 佐藤 保

さとう・たもつ/1934年生まれ。1962年東京大学大学院博士課程退学。オーストラリア国立大学研究員、國學院大学助教授等を経て、1982年お茶の水女子大学教授、1997年同学院長。2002年二松學舎大学大学院教授、2003年常任理事。

今回採択されたCOEプログラムでは、具体的には次の四つのことを計画しています。

まず第一に、漢字漢文文献の収集や所在調査です。対象となるのは、日本人の手によって書かれたものと、和刻本漢籍と呼ばれる日

## 漢文研究者の集う 国際的拠点に

本で版木をつくって中国の本を印刷しなおしたもの、そして、中国の漢籍に日本人が注や解説をつけた準漢籍といわれるものの三種類で、国内はもちろん、世界中のデータを集める計画です。ヨーロッパの文献についてはケンブリッジ大学の学者がすでに「欧州所在日本古籍目録」をつくっていますから、そう無茶な話ではないのです。

# 21世紀COEプログラムに 日本漢文学研究の 世界的拠点の構築が採択

海外の日本研究者は漢文に大変関心をもっています。

第二は、そうした海外の研究者も含めた研究者同士の情報交換と交流です。今年の八月には、中国、台湾、韓国の研究者を招いて、「東アジアにおける漢字文化活用の現状と将来」と題する国際シンポジウムを開催しました。大変盛況で、有意義な報告がたくさんありました。来年は、欧米やベトナム等から研究者を招いて行うつもりです。

第三は、研究者、専門家の養成です。文献調査には書誌学の知識も必要ですから、そういった知識も含めて漢文の読める若手の人材を育てていきたいと思っています。そして第四が、漢文教育振興の



127年の歴史を凝縮した  
大学資料展示室

ための教科書の編集です。現在編集を進めているテキストは、「二松漢文」といい、特色は、日本人の漢文作品を多く採用しようと考えています。

こうしたプログラムを通じて日本漢文学研究を活性化させ、やがて世界中の研究者が集まってきて共同研究をする。二松學舎大学がそうした国際的拠点となるのが夢ですね。

## HISTORY

1877(明治10)年、明治政府による洋学偏重の文教政策や世の風潮に憂い、漢学者であり大審院判事を務めた三島中洲(みしまちゅうしゅう)が漢文学と国文学を二つの柱として東洋学の確立を建学の精神に漢学塾(二松學舎の前身)を設立。以来、東洋の文化を学び日本人としてのアイデンティティーを確立するという教学研究の伝統は今日も受け継がれている。夏目漱石や中江兆民など社会的文化的に活躍した卒業生を輩出。

## INFORMATION

日本中国学会第56回大会 10月9日(土)・10日(日)  
9日午後1時半より、九段キャンパス中洲記念講堂で福岡大学教授・中野三敏氏の特別講演「江戸文化と明風」がある。非会員の来聴歓迎。特別講演のみの聴講は無料。  
大学資料展示室 平日10:00~16:00、土曜日は正午まで。  
二松學舎127年の足跡と歴史資料の展示。参観無料。

## 二松學舎大学

www.nishogakusha-u.ac.jp/

九段キャンパス/東京都千代田区三番町6-16 Tel.03-3261-7407

柏沼キャンパス/千葉県東葛飾郡沼南町大井2590 Tel.04-7191-8751